

# Power and perspectives not taken.

## 権力と視点非取得

Galinsky, A., Magee, J. C. Inesi, M. E., and Gruenfeld, D. H. (2006) Power and perspectives not taken. *Psychological Science*, 17(12), 1068-1074.

### Abstract

権力と視点取得の関係が4つの実験と相関研究で検討された。実験1では高権力をプライムされた参加者が低権力をプライムされた参加者よりもおでこにEを描く方向が自己志向、すなわち自発的に他者の視覚的視点をとりにくい傾向を示した。実験2aと2bでは、高権力条件の参加者は低権力条件と比べて、特定の情報を自分だけが知った場合に、他者はそれを知らないということを考慮に入れた判断をしにくかった。これは権力が自分自身の係留点に固執してしまい、他者の視点での調整ができなかったことを示している。実験3では高権力条件は低権力条件よりも他者の表情を読むことができないことが示された。これは権力によって共感を経験することがimpedimentになってしまった結果と考えられる。追加で行った研究では権力と視点取得の個人差のあいだに負の相関が見られることもわかっている。権力は他者がどう物を見て、考え、感じるかを理解する傾向を低下させてしまっていた。

- ・ 本研究では、権力が他者の視点をとることを困難にさせてしまうことを示す。権力の高さをプライムされた参加者は自分の視点に個室してしまい、他者の感情や思考を言い当てさせたときにはその精度は落ちてしまう。

### DEFINITIONS AND THEORIES OF POWER

- ・ 権力は、他者に影響を与える能力と定義される。
- ・ 権力は社会的関係の産物である構造的変数だが、そこから得られる心理的なものは、権力関係の手がかりへの接触や権力に関連する過去の出来事の再生等で活性化させることが可能。(Andersen & Galinsky, 2006; Chen, Lee-Chai, & Bargh, 2001; Galinsky et al., 2003)

### POWER AND PERSPECTIVE TAKING: OPPOSING EFFECTS

- ・ なぜ権力があると視点取得しにくくなるのか？
  - ① 権力があれば他者に頼る必要がないため、他者を正確に理解することが必要なくなる
  - ② 高権力と視点取得は様々な変数(ex.類似性知覚; Davis, Conklin, Smith & Luce, 1996; Lee & Tiendes, 2001、ステレオタイプ、利他行動、援助行動…)に逆方向の影響を与えている
- ・ 上記の点を考慮し、32名に対して個人差研究を実施した。
  - 自己の権力知覚(「他人との力関係では上にいると思う」Anderson, John, & Keltner, 2005)と他者の視点をとる傾向(おそらくIRIの下位尺度。「友だちから見るとそれがどう見えるのか

想像して、友だちをより理解しようと努めることがある」 Davis, 1983.) を測定。

- ▶ 回帰分析の結果、参加者の性別を統制したうえで、権力は視点取得と負の関係にあった ( $B=-0.35$ ,  $SE=0.17$ ,  $p_{rep}=.88$ )
- 権力と視点取得の欠如の関係を直接検討するために、4つの実験を実施した。
  - ▶ 実験1：高権力者が自発的に他者の視覚的視点をとるかどうか
  - ▶ 実験2a&2b：高権力者が自分しかもっていない知識を抑えて他者思考を予測できるか
  - ▶ 実験3：高権力者が他者の表情を正しく読み取れるか
- 構造的な操作（他者を評価させるなど）は認知的負荷を減らして視点取得をしにくくさせるため、プライミングを用いて権力を操作した。

### **EXP.1: DRAWING AN E**

- Hass(1984)の手続き（額に“E”を描かせる）を使用して、権力が他者の視覚的視点の自発的取得につながるかを検討した。
  - ▶ 実験者から見て“逆E”が描かれれば自分視点、“E”が描かれれば他者視点をとっている。
  - ▶ 高権力をプライムされた参加者は“E”を描くことが少ないだろう。

### **Method**

- 参加者：大学生 57 名（女 41 男 16）。平均年齢 20.02 歳。10 ドルの報酬と 300 ドル宝くじへのエントリーと引き換えに実験に参加した。1セッション2～3名で、セッション内でも条件は異なる。
- 権力の操作：参加者は他人に権力を行使した経験について(⇒高権力条件)または他人に権力を行使された経験について(⇒低権力条件)思い出し、記述した。
- 操作を強める手続き：その後参加者はそれぞれ別の部屋へ連れて行かれ、**resource-allocation** 課題と称して高権力条件の参加者は宝くじを自分と他人にわりあて、低権力条件の参加者は自分が宝くじをいくつもらえるか予想した。
- 従属測定：課題の続きとして、①できるだけはやく指を 5 回鳴らす（フィラー）②できるだけはやく額に E の字を描くことが求められた。

### **Results**

- Hass(1984)の指摘に従い、利き腕と性別を統制したロジスティック回帰分析を行い、権力条件、利き腕、性別で E の方向（0=自分方向, 1=他者方向）を予測できるかを検討した。
- 唯一有意だったのは権力条件だった ( $B=-1.51$ ,  $SE=0.76$ ,  $p_{rep}=.88$ )。高権力条件の参加者(33% ,24 人中 8)は低権力条件の参加者(12% ,33 人中 4)よりも、自分方向の E を描きやすい傾向にあった。
- 条件を知らない 1 名のコーダーが、各参加者がどの程度の権力を報告しているかを 7 件法で評定し（コーダーは別の実験では権力報告の一致率が  $\alpha=.94$  だった）、それを用いて分析を行った。
- 高権力条件 ( $M=5.75$ ,  $SD=0.75$ ) のほうが低権力条件 ( $M=2.21$ ,  $SD=0.55$ ) よりも権力を高く報告し

ており ( $t(55)=24.44$ ,  $p_{rep}=.99$ ,  $d=6.57$ )、この評定、利き腕、性別を説明変数としたロジスティック回帰分析でも、上と同様の結果が得られた。

- ・ 他者の視覚的視点をとる機会を与えられても、高権力条件の参加者はそうしにくい傾向にあった。

## **EXP.2A AND 2B: CONSIDERING COMMUNICATION INTENTIONS**

- ・ コミュニケーションは多義性を含む。それを解釈するにあたり、もし自分だけが特権的な知識をもっていると、その知識をもたない他者が言葉をどう解釈するか予想することは困難 (Keysar, 1994; Epley, Keysar, Van Boven, and Gilovich, 2004)。
- ・ 実験 2 では参加者は多義性を含む言葉 (=皮肉とも親切とも受け取れる言葉) を見せられ、それがどう他者から判断されるかを予想した。参加者はその言葉が発せられた状況を知っているため、他者からの判断を予測する際にはその知識を抑える必要がある。
- ・ 高権力条件の参加者は低権力条件の参加者よりも知識を抑えることができずに、自分の考えに固執することが予想される。

※実験 2a と実験 2b は話の設定が反対 (a:皮肉な状況 = 友だちおススメのレストランでの食事が最悪だった ; b:親切な状況 : 友だちが最悪な食事をとったレストランでの食事がよかった) になるだけで、あとはすべて同じ。

### **Method**

- ・ 参加者 : 大学生 42 名 (実験 2b では 41 名)。10 ドルの報酬で実験に参加。
- ・ 権力の操作 : 実験 1 に同じ。
- ・ 従属測度測定 : 主人公が友だちおススメの (2b:おススメしない) レストランでまずい (2b:美味しい) 食事をした翌日に友人に送ったメール (“あのレストランすごいよ、ほんとすごい!”) を友人がどう解釈するかを “1.とても皮肉~6.とても親切” で評定した。

### **Results**

- ・ 高権力条件の参加者 ( $M=3.74$ ,  $SD=1.54$ ) は低権力条件の参加者 ( $M=4.84$ ,  $SD=1.30$ ) よりもメッセージは皮肉ととられると答えていた ( $t(40)=2.47$ ,  $p_{rep}=.93$ ,  $d=0.77$ )。これは、参加者が自分だけが知っていること (主人公の食事の内容) を判断に反映させてしまっていたため。
- ・ 実験 2 b でも上記と一貫する結果が得られた。

## **EXP.3: INTERPRETING EMOTION EXPRESSIONS**

- ・ 実験 3 では、権力が他者の感情状態の読み取りに与える影響を検討する
  - 他者の感情状態を把握する能力は視点取得と関連する心の理論の能力と類似しており、感情的視点取得と呼ばれる場合もある (Denham, 1986)。
  - 社会で権力のある地位につきやすい男性は女性と比較して、感情を読み取るのがへた (Hall,

Gaul, & Kent, 1999; McClure, 2000)

- ・本研究では DANVAS2 (強さ、種類の異なる感情を表出している若い男女の写真セット Nowicki & Carton, 1993) の課題を用いて上記の予測を検討した。統制条件も加えた。

### Method

- ・ 参加者 : 大学生 70 名 (男 16 女 54) 平均年齢 20.17 歳。12 ドルの報酬で実験に参加。実験はほぼ個別で行われた。
- ・ 権力の操作 : 実験 3 では高権力条件と統制条件が設定された。高権力条件の操作は実験 1 に同じ。統制条件は昨日一日の自分の様子について記述した。
- ・ 従属測度測定 : DANVAS2 への回答。24 種類の顔が happiness, fear, anger, sadness のどれかを表出していた。

### Results

- ・ 誤った判断をした数に対して権力×性別の分散分析を実施した。
- ・ その結果、性別の主効果( $F(1, 66)=4.59, p_{rep}=.90, \eta^2=.07$ )と権力の主効果( $F(1, 66)=10.81, p_{rep}=.98, \eta^2=.14$ )の両方が見られ、男性( $M=4.56, SD=3.01$ )は女性( $M=3.61, SD=2.12$ )よりもエラーが多く、高権力条件の参加者 ( $M=4.54, SD=2.80$ ) は統制条件の参加者 ( $M=3.11, SD=1.57$ ) よりもエラーが多かった。交互作用は有意ではなかった。

### DISCUSSIONS

- ・ 4 つの実験を通じて、権力の高さがさまざまな形式の視点取得を妨げることが示された。独立変数の操作と従属変数の測定のあいだに関連があることを疑った参加者はいなかったため、この傾向は少なくとも一部は非意識的なものだと考えられる。
- ・ 本研究はすべて二択の従属測度を使用し、2 条件を比較していた。権力の高さをより細かくした検討をすることが望ましい。
- ・ 今研究の結果は、権力を持つことが目標追求を促進する (Galinsky, et al., 2003)、対象の客体化を促進する (Gruenfeld, Inesi, Magee, & Galinsky, 2005; Keltner et al., 2003) というこれまでの研究とも一貫する。他者の心について考慮しないことがこれらのことを可能にするのだろう。
- ・ 他者の視点をとらないこと、自分に都合がいいように他者を客体化すること、他者をステレオタイプ化することはすべて、権力者が権力ある地位に続けるために使用する認知方略。
- ・ しかしその一方で視点取得の欠如は反乱にもつながる。視点取得なき権力は、短期的な目標達成には貢献するかもしれないが、長期的には権力の衰退につながる可能性がある。
- ・ 本研究では、ターゲットについての個別知識、責任感や説明可能性が権力に与える影響、文化の影響などを考慮していない。今後の研究ではこれらも検討する必要がある。